

「代理出産」に関する大学生の意識調査

山下真由 溝口祥代 吉田真奈美 川上舞子 田上志保 藤井友紀
指導教員 中塚幹也

【緒言】

将来の妊娠を希望しているが、子宮癌などのため子宮摘出を受ける女性は多い。このような女性も生殖補助医療の利用により、代理出産を行うことで、遺伝的に夫婦自身の子どもを持つことが可能になった。しかし、日本では正式に認められていないため、海外などで代理出産に臨むカップルは増加していると考えられる。2007年になり、向井亜紀さん夫妻の代理出産で得た子どもの認知が最高裁で認められなかったにことに関して、マスコミ等で取り上げられ、多くの議論を呼んでいる。今回、私達は大学生の代理出産に対する意識を調査した。

【対象・方法】

2007年5月～7月の3ヶ月間、岡山県内の大学生、大学院生に、同意のもと、無記名自己記入式質問用紙に配布し、回収箱に投函する形で回収した。回答は466名から得られた。なお本研究は、岡山大学医学部保健学科倫理委員会の承認のもと施行した。

【結果】

1. 対象の背景

学生の年齢は 20.5 ± 2.5 (mean \pm S.D.) 歳 [19～39 歳] であり、事前に代理出産に関する講義を受けた者は約 35% であった。

2. 代理出産に関して

代理出産の問題に関して、83.6%の学生が興味をもっていた。また、代理出産に対して、74.5%の学生が賛成と回答した。

3. 代理母・代理出産に賛成する理由

「医療技術的に可能であるなら行っても

よい」、「代理出産で幸せになれる」、「夫婦が子どもを望むのは当然」、「不妊症患者がかわいそう」などの回答が見られた。

4. 代理母・代理出産に反対する理由

「子どもの受け渡しの際のトラブル」、「代理母の出産のリスク」、「家族関係が複雑になる」、「代理母自体に抵抗感や違和感がある」、「法的に認められていないから」などの回答が見られた。

5. 性別、学部、講義の影響

代理出産問題への関心は、女性の方が高率であったが、賛否については、有意差は見られなかった。医療系群の方が、非医療系と比較して代理出産に賛成する率は高値の傾向が見られた。代理出産の現実に関して講義を受けた学生では、講義を受けていない学生と比較して代理出産に賛成する率は有意に低値であった。

【考察】

学生は代理出産に高率に賛成していた。しかし、講義によって代理出産の問題について知識を得た結果、種々の問題点も知ったため、賛成率が低下した可能性がある。また、法整備の有無が代理出産の賛否に影響を与えている可能性がある。

【結論】

多くの大学生が代理出産に賛成しており、その実施に関しては議論が必要である。

しかし、報道からの情報だけでは、感情論となりやすく、このため賛成に傾く可能性がある。代理出産に伴う種々の問題点も含めた知識を得る機会が必要である。